



ブルルとポリ のた



目次

ブルルとポリリとキララのたまご	1
-----------------------	---

ブルルとポリリとキララのたまご

「みてみて、おっきなたまご！」 しろくてまあるい、おっきなたまごがひとつ。ブルル、ポリリ、キララという3にんきょうだいのいえのにわに、あるひ、とつぜんあらわれました。ふつうのたまごの10こぶんくらいのおおきさです。3にんはおおさわぎ。

たまごのまわりにあつまって、いったいなんのたまごだろうと、はなしあいました。

おくびょうもののブルルは「きつと、とってもこわいきょうりゅうのたまごだよ。」といて、からだをブルブルッとふるわせました。のんびりやのポリリは「おおいけれど、なかみはふつうのたまごだよ。」といて、のんきにあたまをポリポリとかきました。たのしいことがだいすきなキララは「きつと、とびきりおいしいたまごが、たくさんはいつてるんだよ。」といて、めをキラキラかがやかせました。

3にんは、それからまいにち、たまごをながめていました。けれど、いつまでたっても、たまごはわれません。キララがいました。「たまご、わってみようよ。」ブルルはいいました。「こわいきょうりゅうがでてきたらどうするんだよ。」ポリリもいいました。「あつためて、ひながかえるのをまとうよ。」3にんはおたがいにプンスカ。けんかになってしまいました。

そんなあるひ、3にんのいえに、ひとりのたびびとがやってきました。みなりはまずしく、とてもやせています。たびびとはいいました。「わたしは、まほうつかいのパールといいます。じつは、まほうのたまごをなくしてこまっています。おっきなしろいたまごです。しりませんか？」3にんは「あっ！」とおもいました。キララがききました。「まほうのたまごって、どんなまほうがつかえるの？」パールがこたえました。「ほしいものをなんでもだすことができるのです。」それをきいた3にんは、そのたまごをかえすのがおしくなったので、かおをみあわせて、こたえました。「そ、そんなたまご、しらないよ！」パールはざんねんそうにいいました。「そうですか、わかりました。」そして、いまにもたおれそうになりながら、どこかへさっていきました。

ブルルはいいました。「きつとあのたまごにちがいないよ。」ポリリもいいました。「すごいものをてにいれちゃったね。」3にんは、たまごをあらためてながめました。「おいしいおかしを、たくさんだそうか。」「それよりも、めずらしいおもちゃをだそうよ。」「ぼくは、かわいいどうぶつがほしいな。」たのしくそうだんしていましたが、ブルルがふといいました。「パールさん、だいじょうぶかな...。」すると、とてもこまっていたパールのかおがおもいだされました。ポリリもいいました。「うん、しんばいだね...。」3にんはシーンとなりました。しばらくして、キララがいました。「やっぱり、たまご、かえそうか。ほしいものをてにいれても、パールさんがこまったままじゃ、ぼくたち、ちっともしあわせじゃないや。」そうして3にんは、たまごをもっていえをとびだし、パールをさがしにいきました。ヨタヨタとあるいていたパールはすぐみつかりました。3にんは、たまごをパールにさしだしました。「はい、パールさん。」

まほうのたまごってこれのこと？」　ペールは、とてもよろこんでいました。「おお！これです、これです！　どうもありがとうございます！」　そして、たまごをうけとったしゅんかん、ペールはひかりかがやき、りっぱなまほうつかいのすがたになったのです。

ところが、つぎのしゅんかん、てからたまごをおとしてしまいました。ペシャツ「あっ！」　3にんは、びっくりしました。でも、ペールはりっぱなすがたのままです。そして、われたたまごのなかからは、くろいけむりがモクモクとでたかとおもうと、たちまちきえてしまいました。　3にんは、めをパチクリ。　すると、ペールがいました。「ぼくは、わるいまほうつかいにのろいをかけられたのです。　そののろいをとくほうほうは、ただひとつ。“ほしいものをなんでもだせるまほうよりも、ぼくのしあわせをねがうところ”をてにいれることでした。　なかなかてにいれることができずに、100ねんもさまよいました。でも、きょう、あなたたち3にんが、まほうでほしいものをだすことよりも、ぼくのしあわせをねがってくれたおかげで、やっとのろいがとけたのです。」　3にんは、それをきいて、いままでかんじたことのないうれしいきもちになりました。

「おれいに、まほうで、あなたたちのほしいものをだしてあげましょう。」　ペールはそういうと、まほうのつえをひとふり。　すると、とってもおいしそうなおかしや、がいこくのめずらしいおもちゃ、そして、かわいいこいぬがあらわれたのです。3にんはおよろこび。　でも、もうひとつ、ほしいものがありました。　3にんは、ペールにいました。「われたたまごのからをちょうだい！」「え？」　こんどはペールがびっくりしました。　でも、いわれたとおり、われたたまごのからを3にんにわたすと、ペールはニコリわらってどこかへきえてしまいました。　ブルル、ポリリ、キララの3にんは、それから、そのたまごのからをながめては、ペールのよろこんだかおと、そのときのうれしいきもちをおもいだしました。　3にんは、「ひとのしあわせをねがうところ」という、さいこうのたからものをてにいれたのです。　そして、いつしか、だれよりもしあわせな、りっぱなわかものになったのでした。**

ブルルとポリリとキララのたまご

版番号の予定

{{-
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
